

二〇〇五番

天地あめつちと 別れわかし時ときゆ 己おのが妻つま かくぞ年としにある
秋待あきまつ我われは

二〇〇六番

彦星ひこほしは 嘆なげかす妻つまに 言ことだにも 告つげにぞ来きつる
見みれば苦くるしみ

二〇〇七番

ひさかたの 天あまつしるしと 水み無なし川がは 隔へだてて置お
きし 神代かみよし恨うらめし